

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100033		
法人名	有限会社ケアーサポート山栄		
事業所名	グループホームこすもす		
所在地	嘉麻市平山16番地		
自己評価作成日	令和6年2月28日	評価結果確定日	令和6年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和6年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ワンユニットのグループホームで家庭的な雰囲気が特徴です。敷地内や周囲にも自然が多く、静かな環境で、穏やかに過ごす事ができます。感染症対策で、自由な外出ができない状況が続いていますが、面会の制限は徐々に緩和しており、ご面会の際にはご家族や親しい方々とのふれ合いを楽しんで頂いたり、入居者様の近況のご報告等もさせて頂いています。余暇時間の過ごし方は、入居者様それぞれにお任せしていますが、ほとんどの方がリビングで過ごされる事が多く、テレビや他者との会話を楽しまれたり、できる家事を手伝って下さったりしています。毎日の食事でも季節を感じ、楽しんで頂けるよう、職員自ら旬の食材を買い出しし、献立を決め、調理をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年度始めに、実践を振り返り理念を継続するかについて話し合い、理念を日々意識付けるために、目に留まり易い下駄箱の上に掲げている。日々「入居者の心に寄り添うケア」に努め、理念の「気配り、目配り、心配り」は、入居者や職員間だけでなく日常生活でも大切と話す職員から、理念の共有や実践とともに、日頃の人権教育が伺える。家族来訪時に開催している担当者会議で入居者や家族の意向を確認し、「何時からここにいます」とは、「〇〇(息子の名前など)に頼まれた」などと納得できる対応を繰り返し、専門医に内服状況を毎月FAXし、適切な医療受診を支援している。4月から運営推進会議は家族や地域代表などの参加で再開予定で、今後も地域から入居や認知症介護の相談を受けながら、理念の「近所との付き合いを大切に」した地域密着型サービスの展開が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム こすもす**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、年度始めに理念の共有を行っている。 現在、施設への立ち入りの制限を儲けている為、地域の方との交流は難しいが「ご家族との繋がりは出来るだけ持てるようにしている。	毎年度始めに、実践を振り返り理念を継続するかについて話し合い、理念をさらに意識付けるために、目に留まり易い下駄箱の上に掲げている。職員は理念の「目配り、気配り、心配り」で、「入居者の心に寄り添うケア」に日々務めていると話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前年度から、高校の介護福祉科の生徒の実習を受け入れている。 隣組みへの加入も続けている。 近隣に住宅が増えてきており、ご近所の方と挨拶を交わしたりしている。	区長が市報を持参したり、元区長から入居などの相談を受けている。最初はよそいき顔だった入居者が、実習生が最終日に好きな歌を一生懸命披露する姿に涙するなど、実習生の受け入れは良い刺激となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会内の方から、施設入居に関してや、認知症の介護についてのご相談を受けたりしている。施設の空き情報を一緒に調べたり、施設の種類等をご説明させて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策により書面開催をする事が多い。 4月からは通常開催を行う予定。 報告は書面だけでなく、ご家族の来所の際などにお伝えするようにしている。	令和5年度は8月のみ、区長や家族、入居者等の参加で開催し、入居者の暮らしぶりや運営状況を報告し、玄関で会議録を公表している。 4月の会議は既に家族2名や区長が参加予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメールでの連絡体制が整っており、必要があれば報告や相談を行っている。 入居者情報もメールにて毎月報告している。	毎月居室情報を担当部署にメールで報告し、入居の問い合わせを受けたり、ケースワーカーに当該入居者の長期入居実態を報告するなど、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が、身体拘束について学び、施設内での身体拘束はせずに日々の介護にあたる事ができている。お声掛けの工夫や、専門医の受診等で、大きな問題になる前に対応ができています。	今年度は職員のみで開催した身体拘束適正化委員会が多く、毎回身体拘束ゼロを確認している。内部研修でマニュアルや指針の確認とともに、納得できる説明や声かけを実践している。家族の了解を得て転倒防止のために1名の方がセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての職員研修を、年に2回行っており、職員同士での意見交換を行い、自身が行っているケアが適切であるか見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議内で勉強する機会を持っている。制度の利用が必要ではないかと思われる方には、ご説明を行っている。	以前成年後見制度の利用があったが、現在は入居時や状況に応じて活用を説明するために、日常生活自立支援事業や成年後見制度の内容やその違いについて内部で学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については、詳しくわかりやすい説明を行うようにしている。 契約時だけでなく、お電話等でもご質問にお応えしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やサービス担当者会議以外でも、ご来所の際に意見を伺っている。施設玄関に苦情受付の掲示、入居契約の際の重要事項説明書でも説明している。	毎月来所される家族も多く、ケアや運営に関する意見を伺ったり、ラインで状況を報告する家族もある。「いつ外出できるのか」や「写真を下さい」には状況説明やライン送信で応じ、家族と墓参りに外出された入居者もある。	家族の意見表出を促し、意見を運営に反映するために、面談や電子媒体の活用とともに、日々の暮らしぶりや行事案内、運営推進会議の案内や報告などを掲載したホーム便りの復刊を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から、職員の意見はよく聞くようにしている。 現場で必要な設備等、職員からの情報で気付く事も多い。	感染防止に配慮し、管理者は職員の意見や提案を朝の申し送り時や個別に話し合っている。入居者の状態で変化する食事や入浴に柔軟に対応する話し合いが行われ、掃除機や洗濯機の購入が叶っている。管理者は毎日法人事務所に出向き、運営者に意見や要望などを報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況の変化、仕事に対する意向等を聞き取り、出来るだけ希望に沿った勤務日数、シフトで調整している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別を理由として非採用とする事はない。 この職員の生活状況や、能力等を考慮し、それぞれに合った働き方ができるように配慮している。	運営者親族を含め、20代から77歳までの男女の職員が、夫々の状況に応じて夜勤や日勤のみ、土日限定などで就労し、子育て世代を支援している。他職種や実父の看取りを経験し再入職した職員は、認知実務者研修を修了し、介護福祉士資格取得を目指している。職員は夫々の得手不得手をフォローし合い、生き生きと勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権擁護についての勉強会を施設内で行っている。 尊厳とは何かを考え、接遇に関しても失礼のない対応ができるよう努めている。	市主催の人権研修に施設長や管理者が参加し、伝達講習をしている。入居者や職員間だけでなく日常生活でも、理念の「気配り、目配り、心配り」が大切と話す職員から、理念の共有や実践とともに、日頃の人権教育が伺える。	さらなる人権教育や啓発活動を促進するために、カスタマーハラスメントを含むハラスメント指針の整備や研修を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修はなかなかできていないが、次年度からは徐々に増やしていく予定にしている。 eラーニング等を活用した研修は今後も活用していきたい。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	オンラインでの研修等への参加をしている。 本年は実務者研修を2名が受け、他事業所の方と交流したことが大変ためになったとの事。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始直後は、新しい環境に戸惑う方もいる為、まずは在宅の時の生活状況を伺い、徐々に施設の生活時間に慣れて行けるように配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の説明を出来るだけわかりやすく行うようにしている。 不安に思う事やわからない事がないか、確認しながら、一緒に介護していくという姿勢をお見せできるように心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族だけでなく、居宅のケアマネジャーの意見も聞き、困りごとの見極めができるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない事の把握も大切だが、今出来ている事に目を向けるようにしている。 洗濯たたみなどをお手伝い頂いた際には、「ありがとうございます。」と感謝をお伝えする事で、ご本人の意欲が高まっていると感じている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来所時には明るい挨拶を心掛け、ご本人の日頃の様子などをご報告させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少人数、短時間ではあるが、ご面会を受け付けている。 ドライブの際にご自宅周辺に行く事もある。 手紙やお電話もいつでも受け付けている。	入居者が昼寝をする時間帯に、予約制で人数や時間を制限した面会を事務室でお願いしている。固定電話を取り継ぎ、作成を支援している家族への年賀状には返信も多く、墓参りを支援するなど、関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の交流に制約はない。 時折、些細な事をきっかけに言い争いになる事もある為、会話の内容や表情を見守りながら、トラブルが予測されるような場合は、職員がさりげなく間に入り、未然に防げるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された元入居者の方やそのご家族から、手紙や電話を頂いたり、転居先の施設から連絡を頂く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを言葉にする事が苦手な入居者が多い為、 まずは、その方のペースで過ごす事ができるよう、表情や態度を見守りながら気持ちを組むようにしている。	医療機関からの入居が多く、主治医やソーシャルワーカーからの情報を基本シートに整備している。思いや意向を表出できる入居者もあり、言動の背後にある思いの把握に努めているが、セクシャルハラスメント行為には毅然とした対応をとっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はもちろん、入居し、信頼関係が築けたのちに、生活歴などの詳細がわかる事も多い。 職員との会話の中で新しい情報が聞けることもある。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかな一日の流れは決まっているが、無理強いすることなく、それぞれのペースで過ごした頂いている。好きな事をして過ごす時間を持てるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の際だけでなく、ご面会の際にも現状のご説明を行い、今後についての話しをさせて頂いている。 かかりつけ医や専門医から意見を伺うこともある。	家族来訪時に担当者会議を開催し、入居者や家族の意向、職員の気づき、かかりつけ医の指示を話し合い、現状に即した柔軟なケアに努めている。「何時からここにいる」とは、「〇〇(息子の名前など)に頼まれた」と心に寄り添った対応に納得される入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りの際に、職員がそれぞれ自分なりの気づきを話し合っている。職員間で共有し、実践につなげる事ができている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況の変化による、一時的、もしくは継続が必要な困りごと等には、ご相談があれば出来るだけ対応するようにしている。ご本人の変化に対しても、ご家族や主治医の意見を聞きながら支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族との協力のもと支援を行い、併せて、医療機関や行政とも連携しながら、施設での生活が送れるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診以外にも、定期的な健康診断も行っている。体調の変化がある場合も相談し、受診や、専門医への受診等へつなげられるよう協力して行っている。	全入居者が協力医療機関から月2回訪問診療を受け、週1回訪問看護師が健康管理に来所している。定期的に家族と専門医を受診している入居者もあり、内服状況を毎月FAXし、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ訪問看護師が長く関わって下さっている事もあり、入居者の状況も良く理解し、職員との関係性も良い。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、ソーシャルワーカーとの話し合いがある場合は、了承があれば同席させて頂き、情報の共有に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議の際だけでなく、ご面会の際にも現状のご説明を行い、今後についての話しをさせて頂いている。医師やソーシャルワーカーと話をすることもある。	入居時や容態に応じて、重度化や終末期の意向確認書を取り交わしているが、「その時にならないと分からない」との意見が多い。体調悪化で入居前の医療機関の入院を希望され、逝去された方もありますが、現在まで看取りはない。かかりつけ医との連携や看取り研修などで準備が整えば、看取りを検討する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿い緊急時の対応ができるようにしている。 毎月の職員会議内の勉強会でも初期対応を取り入れる事もある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。 机上訓練にて、避難の際の避難場所、経路の確認も行っている。施設横に職員の住宅があり、近隣の住宅にも協力を求められる方がいる。	市の指導で年2回、夜間想定 of 避難訓練を実施し、ホームが水害指定地域のため、机上で避難経路を確認している。近隣に開所予定の通所系サービス事業所とも、災害時には連携する予定で、法人事務所で食料品や感染グッズを備蓄し、BCPは策定間近である。	備蓄の過不足を確認できる台帳などを整備し、策定されたBCPの研修やシミュレーションで、さらに現状に即したBCPの策定とともに、地域の理解や協力を得るために運営推進会議で策定されたBCPを説明されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内では、自由に過ごして頂くようにしており、居室に出入りする際は了承を得るようにしている。 言葉掛けも、まずはお互いの信頼関係を大切にし、失礼のない言葉かけができるよう努めている。	尊厳や接遇に関する内部研修を実施し、丁寧な声かけに努めている。氏名での呼称を基本としているが、同姓の場合は下の名前や名前の呼称で意志疎通が円滑になる入居者もある。排泄の誘導は耳元で声をかけ、夜勤時もトイレのドアを閉めて介助している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の理解力に合わせて、わかりやすくお声掛けし、ご希望を聞き出す工夫をしている。 言葉にならなくても、表情や態度から、気持ちを察して行けるよう努力している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間等の一日の流れや入浴日は決まっているが、余暇時間は入居者それぞれにお任せしている。レクリエーションも無理強いない程度に行っている。参加率は良い。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お着換えの際にお好みのお洋服を選ぶ方がいる。 毎回、同じような服装になってしまう事も多いが、ご家族にも了承を得ている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、下膳の手伝いをして下さる方がいる。 食事の内容も、好き嫌いに合わせておかずを変更する事もある。	入居者の希望で麺類が多く、パン食や時にはインスタントラーメンの日を設け、おせち料理や恵方巻などの行事食を楽しんでいる。テーブルを男女で分け、全員食卓につき、順番で食前の挨拶をしている。箸で食べる方がほとんどで、見守りや声かけ、一部介助などで、毎回全員が完食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の確認を毎日行っている。尿量の変化にも気を配り、必要な栄養や水分が確保できるように努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。職員が口腔ケアの必要性を理解し、自力で出来ない方もスポンジブラシでのケアを行い、清潔の保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄が続けられるよう支援している。出来る事、出来ない事、排泄のタイミングの把握をし、食事の前後など、お声掛けや誘導を行っている。	排泄が自立している入居者もあるが、トイレでの排泄を基本とし、時間やタイミングを見計らった声かけや誘導、ズボンの上げ下げや便座からの立ち上がりなどを支援している。オムツ交換の拒否には複数の職員で対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬だけに頼らず、体操や食事をよく噛んで食べて頂く事などをお声掛けしている。食事内容も野菜を多く使用するように心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の入浴日は決めているが、体調や用事によって、変更する事がある。お好みに応じて湯温の調節も行っている。	清掃が行届いた明るい浴室には大きめの個浴槽が設置され、車イスの方には2人体制などで、週2回の入浴を支援している。男女で入浴日を分けているが、受診日や体調によって柔軟に変更し、同性介助の要望に応えている。入浴を億劫がる方に声かけなどを工夫し、入浴順番を変えている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて、寝具の調整を行っている。状態に合わせ、クッションを使用したり、ベッドの場所を移動したりしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の申し送りや、毎月の職員会議で薬の変更や頓服薬の使用状況について話し合っている。変化があれば職員から報告があり、主治医への相談へとつなげている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節によっては、施設敷地内の散歩に行ったり、ご家族の来所時に一緒にお散歩を楽しんで頂く事もある。屋内でも音楽をかけたり、ゲームが好きな方は職員とオセロ等を楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	原則、ご家族もしくはご家族が認めた方の付き添いを必要とさせて頂いている。 現状は、感染症対策もあり、外出は受診の際のみとなっているが、今後は制限を緩和していく予定。	感染防止に配慮して外出は受診時のみとし、家族が同行できない場合は管理者が同行している。天候の良い日には面会に来所された家族と一緒に、広い園庭や駐車場の散歩を勧めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室での現金も所持は控えて頂いている。 事務所にてお預かりし、ご本人、ご家族の希望を受けて、買い物の支援を行う事がある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人、ご家族の希望のもとで行っている。毎年、ご家族へ向けて年賀状を送っており、とても好評を得ている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内はワンフロアで見渡しやすい造りになっている。 リビング窓からは、敷地内や外の景色が見え、季節の移り変わりがわかる。室温や換気にも気を配っている。	玄関を入ると、ガラス張りのドア越しに居間が見渡せる。共用空間は清掃が行き届き、家族から「尿臭などが無い」と高評価である。対面式厨房から美味しそうな匂いが漂う居間では、仲の良い入居者同士がソファに寄り添って座り、大型テレビでドラマを観る姿があった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、外を眺めたり、テレビを観たり、他の入居者と話したりと、その場の気分に合わせてそれぞれが自由に移動し、寛いで頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、衣類、写真など、ご自宅で使用されていたものを持参される方が多い。 季節ごとに、ご家族の意見も聞きながら、衣替えや模様替えも行っている。	入口には表札や本人の希望に沿って写真が掲示されている。清掃が行届いた広い居室はテレビや筆筒などが持ち込まれ、クローゼットは整理整頓されている。誕生日カードや家族写真が飾られ、ぬいぐるみが椅子に座るなど、居心地良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口にはご本人の写真とお名前を貼り、ご自身でわかるように工夫している。 お荷物の整理もできる方はして頂いている。		